

上越市創造行政研究所（上創研）は、平成12年に設置された上越市役所の組織内シンクタンクです。当市のまちづくりを支援する調査研究機関として、人口データなどの分析や情報提供、フォーラムやワークショップの開催、調査研究による政策提言などを行っています。

Topic 01

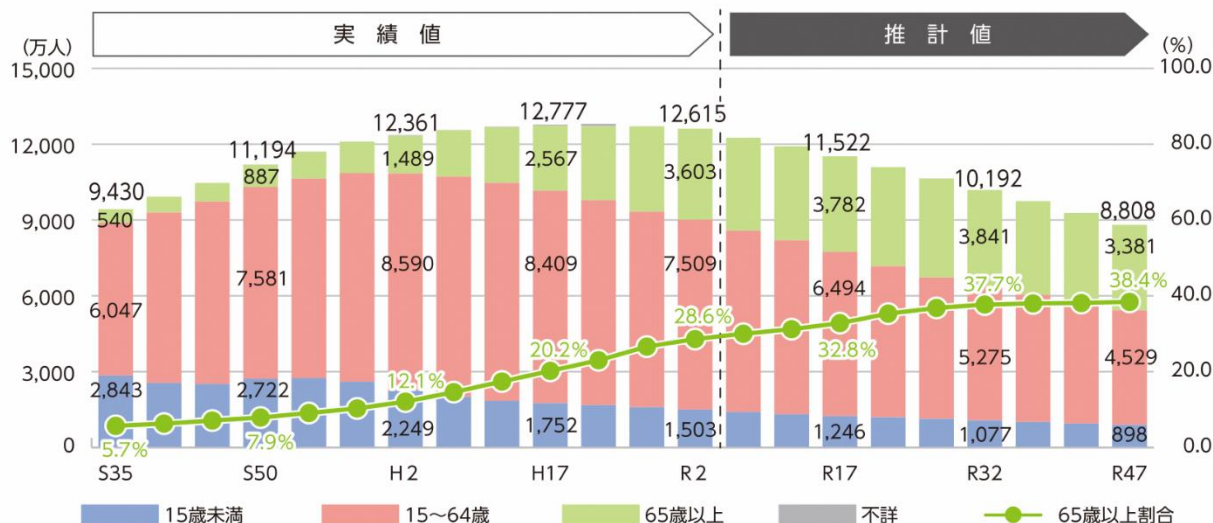
令和7年国勢調査が始まりました

国勢調査は、日本に住む全ての人と世帯を対象とした国の最も基本的な統計調査です。

5年ごとに実施され、私たちの暮らしの現状を正確に把握するために欠かせないものとなっています。

国勢調査の基準日は「10月1日」で、これは大正9年の第1回調査から変わっていません。この日付が選ばれた理由としては、年末年始を避け、積雪がない季節であること、比較的人口の移動が少なく、居住実態が把握しやすい時期であること、農繁期でないこと（当時は人口の大半が農民）が挙げられます。

この調査で得られたデータは、国や地方公共団体が行う様々な政策の基礎となり、上越市の「総合計画」も「将来推計人口」や「就業者数の推移」など、国勢調査の結果を基にしたデータを活用しています。



日本の総人口と高齢化の推移（上越市第7次総合計画から抜粋）

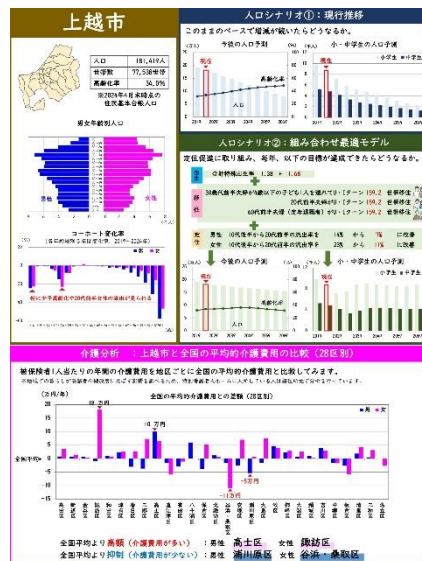
「地区別データシート」を公開しています

当研究所は国勢調査等を基に様々なデータの分析を行っています。これを地域自治区ごとにダッシュボード化したものが「地区別データシート」で、全28地域自治区を順次公開しています。

このデータシートに掲載されている「人口」や「介護」といったデータは、当研究所が令和5年度から進めている「持続可能な地区別まちづくり支援事業」の中で活用しており、地域の現状を具体的な数値で示すことで、住民自らが地域の将来像を考え、持続可能となるための仕組みや取組の検討に繋げています。

地区別データシートは市公式ホームページに掲載していますので、ぜひ、自由にご活用ください。

「地区別データシート」はこちらから➡



地区別データシート（全市）

Topic 02

8月19日(火)に板倉区で「地区まち」のキックオフとなるフォーラムが開催されました



フォーラムでは、はじめに、当研究所がモデル地区で実施している「持続可能な地区別まちづくり推進事業」(以下「地区まち」)の取組について紹介しました。その後、藤山所長より、地域の現状分析(将来人口予測や介護分析)、板倉区の町内会組織のヒアリング調査結果、全国における地域ぐるみのまちづくりや地域会社と拠点づくりなどの先進事例の基調講演を行いました。

板倉区地域協議会では、今回のフォーラムを機に、9月から板倉区総合事務所と共同で定住促進を考える「地区まち」の住民ワークショップに取組んでいます。10月には板倉中学校でレゴブロックを使ったワークショップ、12月には地域住民に向けた成果発表会を行う予定です。

Topic 03

9月16日(火)に東頸中学校で「地域の未来を考える」レゴブロックを使ったワークショップを実施しました



生徒たちは総合の時間で学んできた「伝統」「場所」「自然環境」「安全」「人とのつながり」という5つの地域課題をテーマに、20年後、30年後の理想のまちをレゴブロックで表現しました。90分の制作時間はあっという間に過ぎ、生徒たちからは「時間が足りない!」という声が多く聞かれました。

完成した作品には、「自然と人にやさしく、まちの内外の人が楽になるまち」など、班ごとのユニークなコンセプトが盛り込まれています。生徒たちが思い描いた未来のまちは、10月18日(土)に開催される東頸中学校の文化祭で展示します。また、地域の大人たちが制作したレゴ作品も同時に展示されます。

子どもたちの豊かな発想から生まれたまちを、ぜひご覧になってください。

